

事務事業名	子ども議会運営事業				担当	教育委員会 生涯学習課 女性青少年係	
政策名	F	市民の知恵と夢で拓くみんなのまちづくり			電話番号	0285-82-7151	
施策名	3	開かれた市政の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成14 年度～）	
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	1. 社会教育総務費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	小中学生を議員に任命し、市政への興味と関心を深め、子どもの目から見た市政への夢のある提言を求め、市議会の仕組みを理解してもらう目的で開催している。小中学校児童生徒が隔年で対象となり、平成24年度は中学生対象（小学校児童：6年生対象、中学校生徒：全学年対象）とし、毎年8月に開催する。子ども議員数28名、内議長6名、質問議員22名質問時間3分以内/人。子ども議会開催後、「子ども議会感想文集」とDVDを学校に配布している。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 打ち合わせ会2回、答弁書打ち合わせ1回。中学生を対象に開催（議長6人、議員22人、質問数22） 25年度計画 市内中学生を対象に開催予定	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
ア	会議開催数	回	3	3	3	3	3		
イ	質問数	回	22	22	22	22	22		
ウ									
エ									
オ									
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内の小中学生	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
ア	中学生生徒数	人	2397	-	2346	-	2352		
イ	小学6年生数	人	-	809	-	818	-		
ウ									
エ									
オ									
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 小中学生に議会の仕組みを理解してもらい、市政への関心を深めてもらう。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
ア	市政に関心を持った児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100		
イ									
ウ									
エ									
オ									
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 小中学生に議会のしくみを理解してもらい、市政への関心が深まる。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
ア	市政への理解と関心が高まった児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100		
イ									
ウ									
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	90	90	90	90	90
	事業費計(A)		千円	90	90	90	90	0	
	人件費		正規職員従事人数	人	2	1	1	1	0
			延べ業務時間	時間	167	167	167	167	0
			人件費計(B)	千円	677	713	708	702	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	767	803	798	792	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	小中学生を議員に任命し、市政への興味と関心を深め、子どもの目から見た市政への夢のある提言を求め、市議会の仕組みを理解してもらうことを目的として平成14年度より開催された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	市議会定数に合わせ、子ども議員数も28名から22名に変更したが、合併に伴い議員数を28名に変更した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	議員になった子どもたち、保護者、教員からとても良い経験になったという感想が寄せられている。議会出席関係者、ケーブルテレビを視聴した方々からも良い評価が寄せられている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市政に子どもの視点を反映することは、開かれた市政の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内の児童生徒が、市政に興味を持ち関心を深めることは、教育の一環である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内全校を対象としている。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 実施の結果、市民、保護者、学校等から好評を得ている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 子どもたちが市政に関心を持てる機会が少なくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業開催のための必要最低限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 学校との連絡調整が主であり、必要最低限の人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内すべての小中学校が対象なので、公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							